



副教材と宿題テスト

宿題テストの採点をしているが、これはもう定期考査以上に「やった人」と「やっていない人」の差が歴然である。まあ、冬「休み」なんだし、休みたいという気持ちは分からないではないが、だからこそ、早めに宿題の内容については明らかにしたわけだし、さらに言えば、年間学習計画表を4月に渡してあるわけだから、それを見てもらえれば、さらに早めの準備もできるのである。とはいってもまだ一年生で、あの学習計画表をうまく活用仕切れなかったのかも知れない。来年も学習計画表は各科目ごとに渡されるだろうから、今年の経験を生かして、単に予習の参考にするだけでなく、自分なりの一年間の学習計画を立てる際などにうまく活用してほしい。

*

ところで、昨年度、日比谷は受験でかなりの成果を挙げたことはご存じの通り。そして「進路の手引き」の合格体験記を読めば、多くの先輩が、塾や予備校に通うことなく、日常の学校の学習に集中することで、その栄冠を勝ち得たことがわかるはずだ。

そもそも進学指導重点校とは、塾や予備校に通わなくても、そして、行事や部活に邁進していても、学校の学習にさえしっかり取り組めば、現役で、誰でもが名前を知っているような大学への進学を可能にすることを目指す学校である。日比谷も、その目標を達成するために、さまざまな努力を重ねてきた。例えば、副教材もその一つなのである。

授業だけではどうしても不足する部分を補うために、例えば国語科では「ちくま評論入

門」とか「力古典1・2」とか「明説漢文基本練習ノート」などを手元において、考査や宿題テストの日程に合わせて学んでもらっている。学習には「質」だけでなく、「量」が必要になる面もあるからである。

それらの教材は、進学指導重点校に指定されてからの試行錯誤の中で、日常の授業との関連や、模試の成績推移などを視野に入れながら、最終的に有益な教材であると国語科として認定したものばかり。

ということは、逆にいうと、それらを一つ一つしっかりとこなして定期考査や宿題テストに臨んでももらわないと、3年後の成績に関して、責任が持てない部分も出てくるということになる。

*

「力古典」にしても、間に合わなかった部分をやったふりをして（答えを丸写しして、上から赤ペンで○や×を書いて）提出することも可能であろう。しかし、結局その「ツケ」を払うのは自分なのである。丸写しをしている時間があつたら、しっかり自分で解いて、その問題を自分のものにするよう努力するほうが、よっぽど自分の将来と結びついた時間の活用法というものだ。

というわけで、もしやりきれていない部分があつたら、時間をみつけてきちんと仕上げてください。特に、だたでさえ時間が不足している漢文分野は、あの問題を解くことも含めて年間の学習スケジュールができあがっていると考えてほしい。健闘を期待する。